

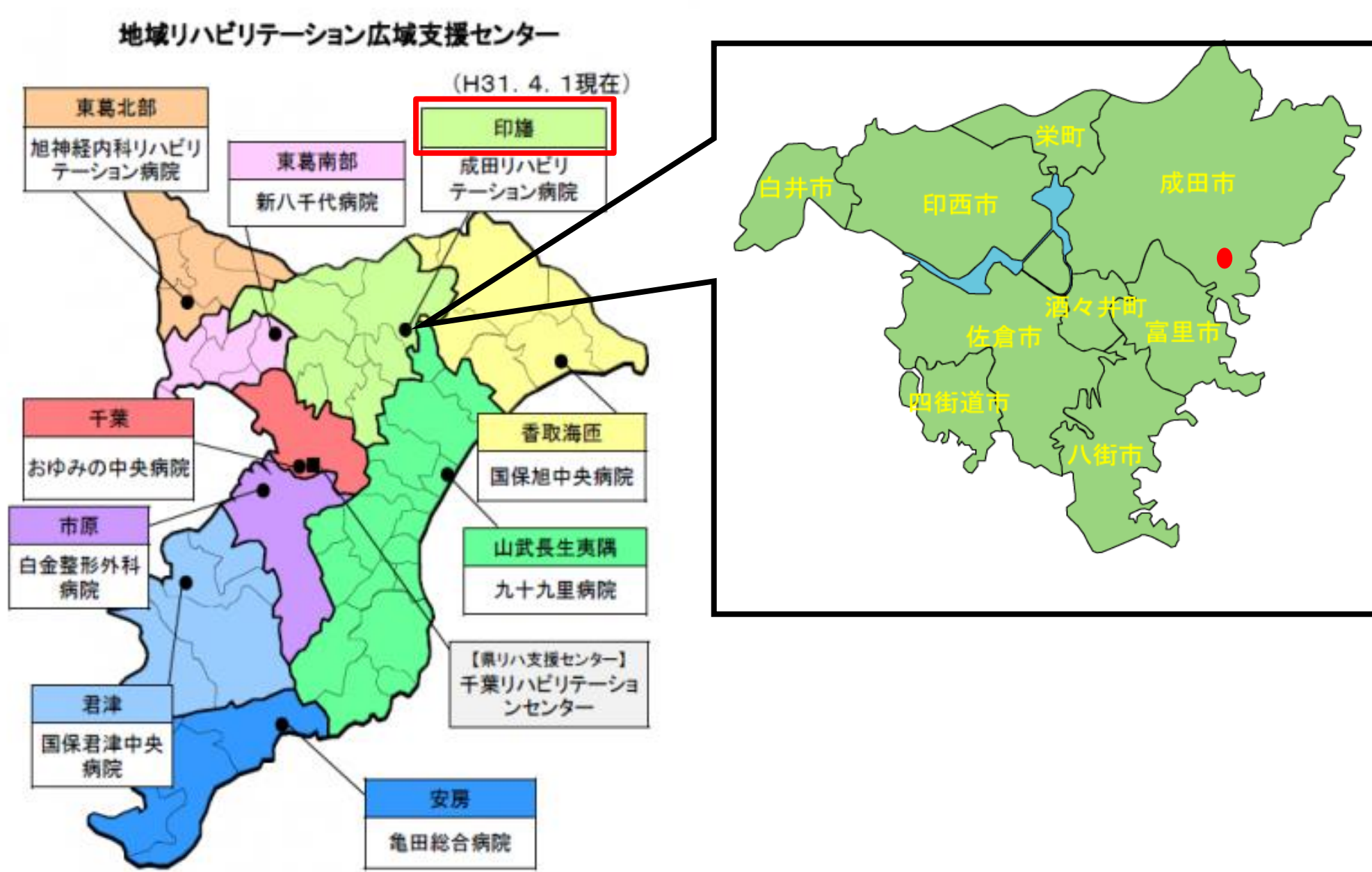
印旛圏域での地域リハビリテーションに関する取り組み

印旛圏域地域リハビリテーション広域支援センター
医療法人社団 心和我 成田リハビリテーション病院
篠原 良介、齋藤 好子、田口 崇、小池 靖子、小林 士郎

1.はじめに

当院は、平成31年度に印旛圏域地域リハビリテーション広域支援センターの指定を受けた。本年度は地域リハビリテーションの周知を目的とした研修会を実施したが、他施設との意見交換会や住民との交流をはじめとした事業展開ができていない。印旛圏域の現状と課題をふまえた上で、今後の地域リハビリテーション推進事業について以下に報告する。

2.印旛圏域の現状



病床数：100床
回復期リハビリテーション病棟
回復期リハ病棟料Ⅰ 脳Ⅰ運Ⅰ呼Ⅰ
リハスタッフ数：PT42名 OT11名 ST8名

森の病院
NARITA REHABILITATION HOSPITAL
成田リハビリテーション病院

当院は、新国立競技場を手掛けたことで有名な建築家 隈研吾氏が設計し、デザイン的にも機能的にも卓越した施設です。成田空港近郊の恵まれた自然と協和し「森の病院」とも呼ばれております。リハビリテーション専門病院として最新医療機器と良質な医療スタッフを擁し、当法人で培ってきた患者様本位のリハビリテーションサービスを提供させていただきます。

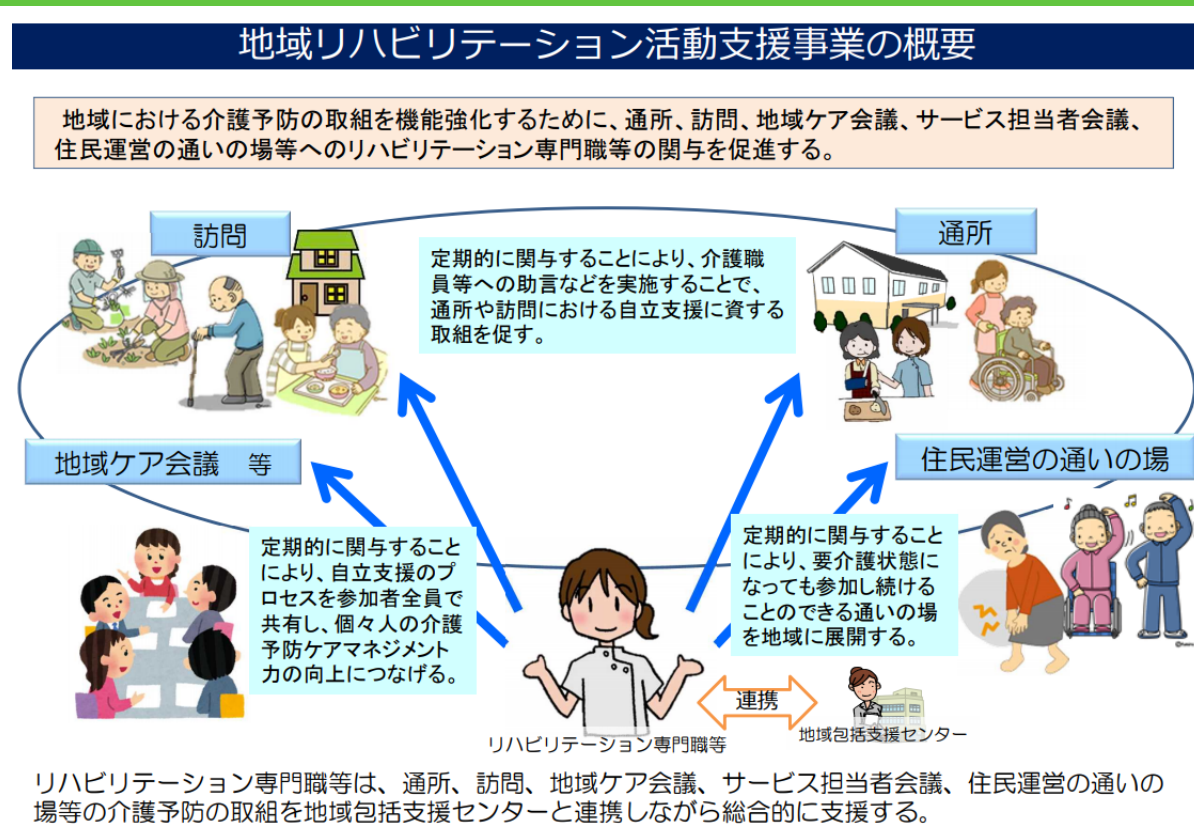


7市2町	面積(km ²)	人口(人)	病院施設(病床数)	高齢化率(2015→2025) 全国平均：26.3%→28.4%	リハパートナー数(計26)
栄町	32.5	2万	1(64)	30.30%→43.90%	2
佐倉市	103.7	17万	6(1,212)	28.70%→34.30%	4
酒々井町	19.0	2万	0(0)	28.70%→32.50%	0
四街道市	34.5	9万	5(953)	28.20%→29.60%	3
八街市	74.9	6万	4(516)	25.80%→33.90%	2
富里市	53.9	5万	3(662)	24.70%→31.80%	2
白井市	35.5	6万	3(451)	23.40%→28.70%	3
成田市	213.8	13万	5(2,311)	21.20%→24.70%	8
印西市	123.8	10万	3(1,089)	20.50%→27.50%	2

3.課題抽出

印旛圏域地域そのものの特色と現状を理解できていない

圏域にリハ資源がどれだけあるのか把握できていない
情報共有と拡散の場を設けたいが手段が少ない



各事業所のどこに支援を募ればいいのかわからない
各々どのような活動をしていて支援を求めているのか

地域住民は生活の中でのどのような活動と支援を求めているのか

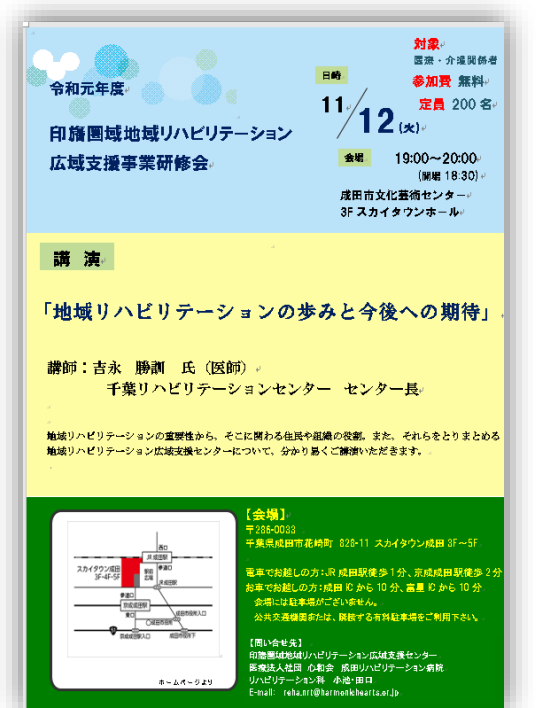
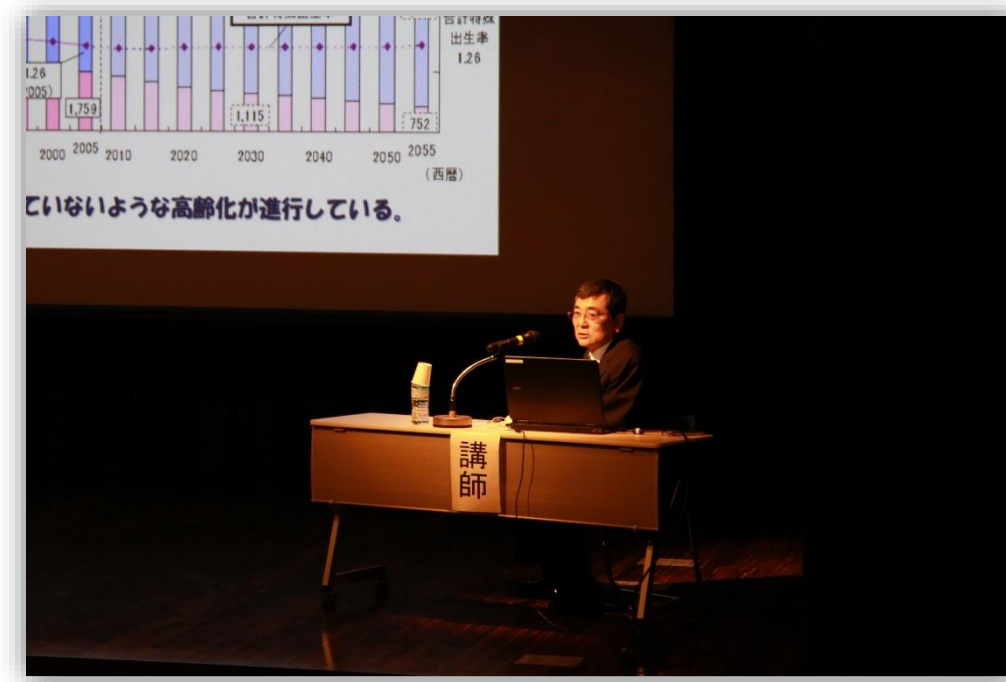
広域支援センターの役割が十分に認知されていない

4.活動報告

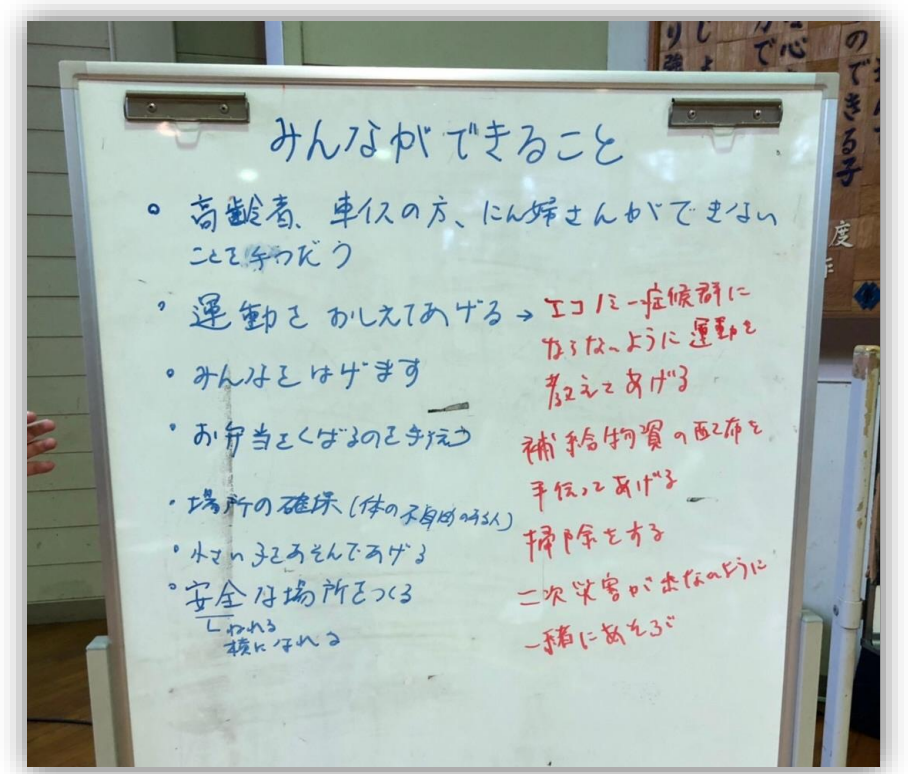
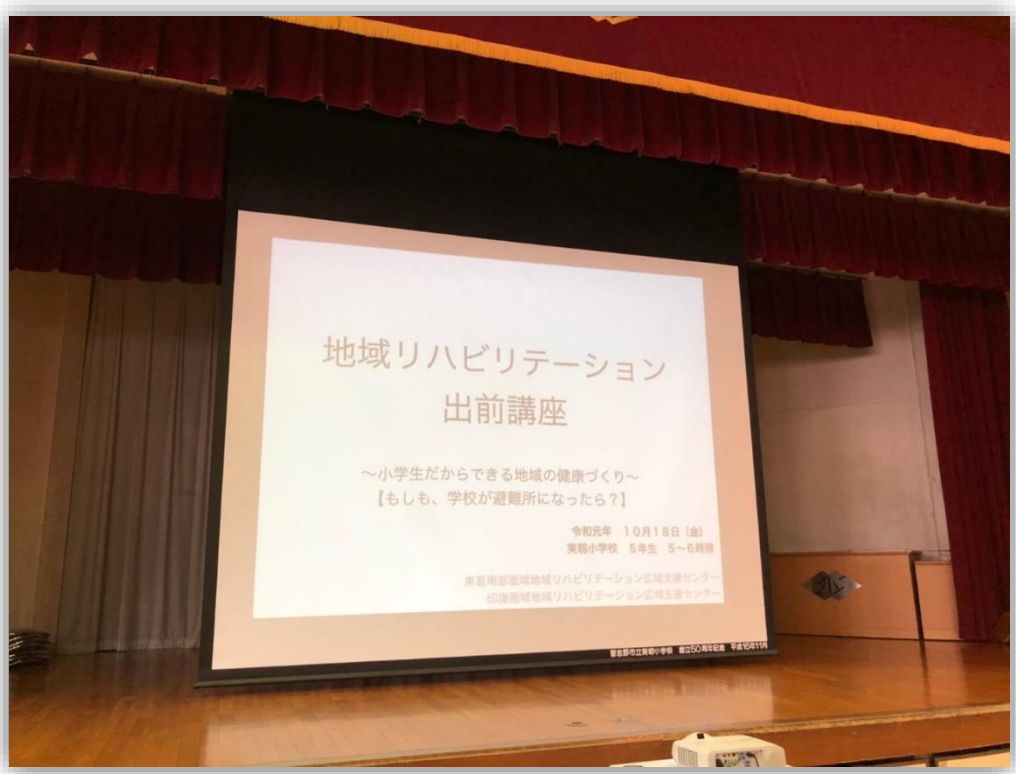
①印旛圏域へのお知らせ用メーリングリストの作成
情報共有としてのツール、ネットワーク構築を進める

②印旛圏域地域リハビリテーション広域支援事業研修会

「地域リハビリテーションの歩みと今後への期待」 千葉リハビリテーションセンター 吉永 勝訓氏



③地域リハビリテーション出前講座（他支援センターの視察）



5.今後の活動目標

①地域リハビリテーション広域支援センター連絡協議会
「本年度の事業報告と来年度の事業計画について」

②ちば地域リハ・パートナー会議
「概要、対応可能範囲の確認と空白地帯への対応策検討」

(①, ②ともに令和2年2月4日を予定)

③圏内市町の各役所等への挨拶回り

④小規模研修会の開催

「簡単な神経学的所見のとり方」

講師：成田リハビリテーション病院

院長 小林 士郎氏 (令和2年1月8日を予定)

⑤他圏域支援センターとの情報共有

地域連絡協議会への定期参加

6.まとめ

印旛圏域は、医療介護とも需要が高まり、特に介護需要は10年間で1.5倍に急増することが見込まれている。限られた資源の中、地域リハビリテーションを展開し、住民が住み慣れた地域でいきいきと暮らし続けられるためには、関連職種での専門職相互連携体制の整備が必要である。リハビリテーション資源の調査・情報収集から、関係機関の従事者に対する技術的援助や住民等を対象に地域リハビリテーションへの理解を深めるための活動をしていきたい。また、コメディカル向けの勉強会をはじめとした小規模研修会をきっかけとして、情報共有と拡散の場を設け、各施設間との連携を図りたいと考える。